

まつけん 松建だより



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

平成 30 年 10 月 VOL4

日頃は松本建設事務所の建設行政にご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年3月に新5か年計画「しあわせ信州創造プラン 2.0」がスタート。基本目標「『確かな暮らしが営まれる美しい信州』～学びと自治の力で拓く新時代～」の実現に向け、当事務所では様々な取組を進めております。主な取組をご紹介します。

橋梁修繕事業：今村橋（松本市）架け替え工事

○旧橋撤去完了 新橋の下部施工中

今村橋（昭和9年完成）は、建設後50年以上経過、老朽化から新橋への架け替えを実施中です。当路線は塩尻市街地への通勤や松本空港へのアクセスなどに重要な路線であり、工事中の通行止め等は困難なため、仮橋を設置（H28完成）し、皆様に通行していただきながら施工をはじめました。

H28に旧橋撤去と仮橋設置、H29に新橋の下部工2基に着工、今年度（H30）は引き続き、反対側の下部工2基、H31は下部工1基を施工し、下部工の完成とともに、上部工に着工します。早期に新橋を渡っていただけるよう、工事の進捗を図ってまいります。



仮橋設置（H28）



旧橋撤去中（H29）



新橋の下部 2 基完成 (H29)

街路事業：内環状南線 中条（松本市）

○下り線は概ね完了 上り線の跨線橋に着手

内環状南線は、松本城や松本駅などがある中心市街地を囲む環状線の南側の都市計画道路。都市計画道路の特徴は「良好な市街地環境を整備する都市計画と一体となって整備される道路」であり、まちづくりの役割を担います。中条では「市街地へのアクセス性向上」や「市街地の魅力を高める」ため、JR 篠ノ井線との立体交差化（跨線橋）や 4 車線化、歩きやすい広い歩道や自転車道、景観等に配慮した無電柱化などに取り組んでおります。

昨年 12 月に下り 2 車線が開通。クリスマスに国道 19 号からの車の乗り入れが間に合いました。

現在、上り線の跨線橋工事や地下歩道工事（大型ボックス）に取りかかっています。電車が通過している線路近接の工事であるため、地盤が沈下しないよう薬液で地盤を固めたり、振動や騒音を抑えるための特殊な重機を使うなど、安全には細心の注意を払っております。特に跨線橋の架け替えは電車が運行していない夜間に工事を実施しています。また、取り壊した旧橋のコンクリートは、奈良井川の堤防を守る河川ブロックに活用するなど、資源の有効利用にも心懸けております。

今は、工事により車線が少なくなったり、歩行者は仮橋を通行いただいたり、大変ご不便をおかけしています。1 日も早い完成を目指して工事を進めてまいりますので、今しばらく、ご協力をお願いします。



着手前



旧橋隣に仮橋を設置し供用中



旧橋を取り壊し中



新しい橋をつくっています



中条工区 上空撮影
新しい橋(4車線のうち2車線)が完成し、仮橋が撤去された現在の状況。
(写真提供：松本土建(株)平成 30年 8月撮影)



残りの2車線分の橋をつくっています。
(平成 30年 9月撮影)

4月

松本平広域公園総合球技場（アルウィン）フィールド

○芝全面張替え

アルウィンは2001年のオープンから16年が経ち、芝の損傷が目立ってきました。そのため、フィールドの芝を全面張替え、更に、スプリンクラーや音響設備もリニューアル！

新しい芝は、選手・サポーターの皆さんからも好評で、4月1日、今シーズン松本山雅FCがアルウィンでの初戦で初勝利をあげました。



新たなフィールドのアルウィン



張替え前の状況。よく見ると右の写真のように剥げています。



張替え前は、補修に苦勞してました。

松本平広域公園（信州スカイパーク）再整備工事

○「第 36 回 全国都市緑化信州フェア」（信州花フェスタ 2019）

2019年4月25日～6月16日に松本平広域公園をメイン会場として開催されます。これにあわせ、やまびこドーム周辺ターミナルゾーンから滑走路南側の野と花のゾーンにかけて、広場や駐車場の整備や芝桜の造成・花木の植栽などを行っています。公園を利用される皆様には、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。信州花フェスタできれいになったスカイパークをご覧ください。うれしく思います。

「第 36 回 全国都市緑化信州フェア」（信州花フェスタ 2019）公式ホームページ

<https://shinshu-hanafesta2019.jp/>



花のプロムナードゾーン 新たなバラ園
(写真提供：(株)藤澤組) 平成 30 年 8 月撮影



野と花のゾーン 新たなシバザクラ花壇
(写真提供：松本土建(株)) 平成 30 年 8 月撮影

6月

「松塩筑・南安曇地域総合土砂災害対策推進連絡会」及び「松本圏域大規模氾濫減災協議会」の開催

○「施設では防ぎきれない大洪水は発生する」意識改革

災害から人命を守るには、河川の護岸や砂防堰堤などのハード対策と、身の危険に関わる情報伝達や避難方法などのソフト対策が必要です。6月8日、松本管内の国・県・市町村の防災関係者約 40 名が集まり、防災、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体かつ計画的に推進するため、対策の目標や進捗状況などを確認しました。

近年、大規模災害が多発し、今年も西日本豪雨や北海道地震など多くの犠牲者を出す災害が発生しています。大規模水害に対しても「逃げ遅れゼロ」、「社会被害の最小化」を目指し、地域の皆様とも取組みを確実に進めてまいります。



会議の状況 【場所：安曇野市明科公民館】

7月

台風 7 号による災害発生

○台風発生数は例年以上！

本年の台風発生数は現在 25 となり、既に平均発生数（25.6）となっています。

特に8月は5つの台風が毎週のように襲来し、大雨と暴風をもたらしました。中でも8月10日には松本市入山辺で時間雨量62ミリを観測するなど、今まで経験したことのない「非常に激しい雨」(気象庁では1時間に50ミリ以上80ミリ未満の雨を呼びます)もあり、県道に倒木や土砂流出が度々発生しました。



松本市入山辺の土砂崩落

大きな被害としては、連続雨量で300ミリを超えた7月4日～6日に松本市の入山辺と奈川金原で道路法面と道路路肩が崩落する災害が発生しました。現在、早期復旧に向け工事発注の準備を進めております。

西日本豪雨災害 広島県尾道市への支援

○当所職員を派遣

尾道市は西日本豪雨により甚大な被害が発生したため、長野県と市町村で編成する長野県合同災害支援チーム「チームながの」を7月19日から5名程度で結成し、1週間ずつ交代で支援しました。その一員として、当事務所から1名 7月23日～29日までの1週間、被災状況調査や災害復旧事業の技術支援活動を行ってきました。

尾道市内では、全域で2週間続いた断水が復旧し、多くの観光客が訪れるなど、穏やかな日常を取り戻しつつありました。その一方で、山間部や離島では土石流や崩壊による土砂災害が、また、平地部では河川の氾濫による浸水害の痕跡が随所で見られ、被害の大きさを痛感しました。

尾道市の公共土木施設に係わる災害申請件数は245箇所、9月下旬から年末までの長期に渡り、災害査定が予定されています。

連日猛暑の中、汗だくになりながら現地調査を行い、市役所に戻ってからは積算を行う、そんな日々をチームで支えながら過ごしてまいりました。微力ながらもお役に立てたのであれば幸甚です。今回の活動では、災害時の対応を見つめ直す貴重な経験になりました。

美しい瀬戸内海が眺望できる尾道へ、次は観光で行ってみたいと思います。一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。



尾道市 平谷市長との面談



尾道市原町(被災状況調査)

8月

国土達式交通大臣表彰伝達式

○長野県では唯一の表彰！

8月は「道路ふれあい月間」です。これにあわせ、国土交通大臣が道路愛護等に努め、その功績が特に顕著な団体等を表彰します。今年度は、松本市の「石芝東町会・朝日街道をきれいにする会」が長野県で唯一表彰され、8月27日に松本建設事務所にて伝達式を開催しました。同会は平成17年に団体を結成して本格的に活動を始め、県道松本空港線の除草、剪定やごみ拾い等の美化清掃活動を行い、道路の良好な環境の保持に努められました。

同会の畔上会長は「以前よりごみが減って散歩をする人が増えた。毎年きれいに咲くツツジの花が楽しみで今後も活動したい」と語られました。



伝達式
表彰を受けた「石芝東町会・朝日街道をきれいにする会」の畔上会長(中央)

松本市明善小学校での牛伏川学習会

○怖かった降雨体験！

明善小学校5年2組の皆さん(27名)に、土砂災害への備えの大切さについての災害学習を行いました。学習会は、地元、牛伏・鉢伏友の会の加藤さん、山浦さんを講師に牛伏階段工の見学、国交省松本砂防事務所による「降雨体験車」による時間雨量20ミリから180ミリの降雨体験、土石流模型実験など盛りだくさんでした。児童からは、降雨体験で「いきなりこ

んな雨がきたら怖い」、「友達の声が聞こえない」、「かっぱと傘があっても濡れてしまうことが分かった」との感想が聞かれました。また、質問コーナーでは、「階段になっている理由が分かった」、「昔の人が石積みの石を運んだ方法がすごい」等の声も聞かれ、熱心に学習してくれました。

ここで学んだ災害の怖さや、防災の大切さを、家に帰って家族のみんなにも伝えたいと結んでいました。



降雨体験はどうでした？



模型で土石流の勉強中！

9月

中学校で大工さんの技能実演に接する体験事業を開催！

○素敵な本棚づくり

木造建築物の担い手である「大工技能者」への関心を高めてもらうため、9月5日・6日に、松本市立丸ノ内中学校で体験事業が行われました。

松本建設労働組合から、1年生の技術家庭科の授業に4名の大工さんを派遣していただき、「のこぎり引き」と「かんながけ」の実演、本棚製作指導をしていただきました。

生徒の皆さん、プロのかんな技術にびっくり。長～いかんな屑を拾って、匂いを嗅いだり大興奮。休憩時間には、我先にと挑戦していました！

素敵な本棚はもう完成したかな？



大工技能者の皆さん



あれ？ 削れてないかな？

10月

牛伏川階段工完成 100 周年記念行事

○のべ 400 名が集う！

地域の皆様による保全活動のもと、今もなお地域を土砂災害から守る「牛伏階段工」。今年は完成 100 年の節目の年です。これを機会に、改めて防災意識を高めていただくために 10 月 18・19 日に記念事業を行いました。

18 日の現地見学会は、天候にも恵まれ、150 人が参加。牛伏鉢伏友の会、土木環境しなの技術支援センター、長野県砂防ボランティア協会の皆様のガイドにより、まだ紅葉には少々早い広葉樹のなかを、下流の牛伏階段工から上流の泥ノ沢の流路工まで約 3km を登りました。参加者は自然を満喫するとともに、100 年前の砂防施設が健在であることに驚き、自然に溶け込んでいる階段工の美しさにシャッターを切っていました。

19 日は「文化財としての価値」松本市や「災害と伝承」長野県立歴史館 笹本館長の講演、県外での砂防施設の保全活動の事例発表、地元明善小学校の児童による防災学習の発表、雪華の会による朗読劇「鶴鴿（せきれい）の女（ひと）」があり、300 名の会場は満員。熱心に耳を傾ける参加者、会場が割れんばかりの盛大な拍手など、大いに盛り上がりました。

今回の記念事業のまとめは、「階段工がなかったら、僕たちは生まれてこなかったかも知れない」との明善小学校の児童の言葉だと思います。砂防施設を築きあげた先人、今も保全活動を続ける地域の皆様への感謝。そして「100 年間地域を守り続けた階段工」の重みを感じさせるものであり、次世代にしっかり引き継いで行くとの使命がこもっていると思います。改めて、成功に終わりましたこと感謝申し上げます。



説明に耳を傾ける参加者のみなさん



会場はほぼ満席になりました。

～編集後記～

今年度 1 回目の発行ですが、最後までお読みいただきありがとうございます。今後も読み手の気持ちになって、お伝えしたいことをわかりやすく記述するようがんばってまいります。今回は内容が盛りだくさんになりましたが、次号は 3 ヶ月ごとの発行を目標にお伝えしていきたいと思っています。今年度もご愛読よろしく申し上げます。